

岐阜出身戦国武将

美濃国黒野城主 加藤左衛門尉貞泰

どうする！ 貞泰

黒野城主加藤貞泰公没後400年記念誌

「どうする！ 貞泰」

発刊によせて



岐阜市長 柴橋 正直

このたびは、黒野城主加藤貞泰公の没後400年記念として小冊子「どうする！ 貞泰」を刊行されましたこと、誠におめでとうございませう。また、黒野城と加藤貞泰公研究会の皆さまのふるさとへの誇りと貞泰公の顕彰に込める思いに対して、心から敬意を表します。

貞泰公が黒野城に在城されたのは16年間でしたが、関ヶ原の戦いで東軍側として奮戦する若き武将として、一方で、黒野城下町の発展に努め、治水対策に尽力した善き為政者として、400年にわたって地域で語り継がれ、慕われてきたことがこの冊子からも伝わってまいります。岐阜市としても、このような素晴らしい歴史文化を未来へ継承していけるよう、皆さまとともに取り組んでいきたいと考えております。最後となりましたが、研究会の益々のご発展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 加藤貞泰公と岐阜市



岐阜市きふ魅力づくり推進部  
文化財保護課主幹  
内堀 信雄

黒野城主の加藤貞泰公は、豊臣秀吉から徳川家康へと天下人が交替した激動の時代を生きた武将です。織田信長や斎藤道三に比べると知名度はさほど高くありませんが、「黒野城と加藤貞泰公研究会」の方々のご尽力により、近年再評価が進んでいます。

貞泰公生誕の地「橋詰」とはどんな場所だったのか。貞泰公の先祖も名を連ねる「四天王」とは何か。黒野築城に秘められた秀吉の意図は。黒野城の発掘でわかったこと。今年の大河ドラマでも重要な場面となる「関ヶ原の戦い」において貞泰公が果たした役割は何か。などなど、加藤貞泰公と岐阜市の関係は謎と魅力に満ちています。

## 黒野城



## 黒野城主 加藤貞泰公を偲んで

美濃国方県郡今泉村橋詰生まれの戦国武将加藤左衛門尉貞泰公が、元和九年（1623）五月二十二日に死去（行年四十四才）して、今年四〇〇年になります。

貞泰公は、十四才から二十才まで、生涯で最も長い十六年間を、四万石の大名で黒野城に在城しました。在城期間中は、波瀾に満ちた戦国武将のひとりでしたが、善政を行い、領民に慕われた領主でもありました。研究会では、発足十三年を迎え、この間に調査研究した資料を基に、また令和五年一月、二月に岐阜新聞コラム欄「素描」に投稿した記事と共に、貞泰公没後四百年記念行事の一つとして貞泰公を一人でも多くの方々に知っていただくよう小冊子に編集しました。

ご一読いただければ幸いです。

令和五年（2023）五月

黒野城と加藤貞泰公研究会

会長 河口耕三

# よみがえれ黒野城

## 調査・研究初期の資料

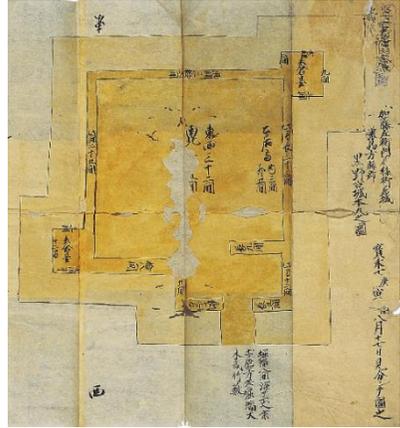
黒野城はどんなお城？  
調査研究の初期に入手、  
作成した資料を紹介します



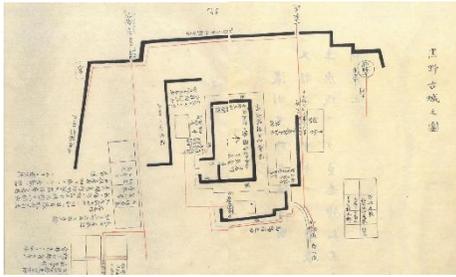
「黒野村絵図」  
古城図部分  
江戸時代  
文化～天保年間  
黒野会館所蔵



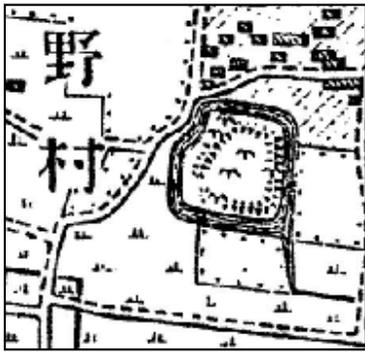
天保15年(1844)「加納領絵図」  
黒野部分 岐阜市歴史博物館所蔵



宝永7年(1710) 廃城100年後  
「黒野古城本丸之図」  
岐阜県図書館所蔵



「黒野古城之図」 江戸時代  
大洲市立博物館保管 北藤録所収



明治43年(1910) 2万分  
の1地図(城跡は樹木)



昭和23年(1948)米軍撮影  
航空写真 本丸内は終戦  
後疎開者が畑を耕作

岐阜市内の城跡で史跡に指定されているのは、岐阜城と加納城、長山城、黒野城の四つ。  
この中で黒野城は、廃城後の跡地は荒れ放題、雑木や竹が密生し、中にも入れず「城やぶ」と呼ばれ、市民に知られることもなく埋もれた存在でした。  
そんな中、地元にある史跡黒野城を大切に、また、より知ろうと立ち上げられたのが、私たちの研究会であります。  
地域の活性化、地域おこしの一つになりたいという、今でいうシビックプライド運動のスタート

## 素描

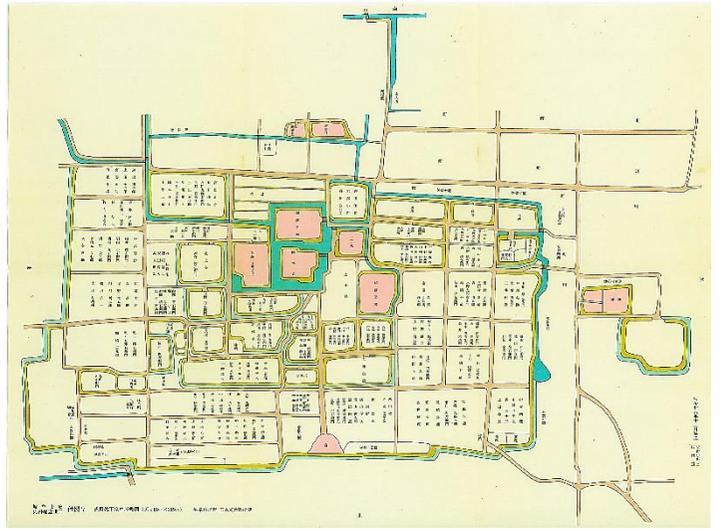
### よみがえれ黒野城

黒野城と加藤貞泰公研究会長 河口耕三

です。  
平成21年8月、同好の士16名で研究会を立ち上げ、2カ月一度の研究集会を開催。調査研究の成果報告や公民館で歴史講演会や校区文化祭での出展など積極的に広報活動を始めました。  
そんな中、岐阜市には、市民活動を支援する制度ができ、早速、これに応募し、3年間支援を受けることができました。この間、取り組んだ事業としては①黒野城のリーフレットや城下町のマップ作成、マップは校区の全世帯に配布②黒野城の城郭推定図作成③城下町シ  
オラマ製作④黒野城案内板の設置⑤来訪者への史跡案内⑥長良川おんぼくへの参加⑦公民館講座の講演と文化祭展示⑧地域誌や新聞へ広報。  
その後、今日に至るまで地域の団体、企業からの援助、また新たに市民活動支援やきふ農業協同組合の地域活動支援もいただき、活動を多岐にわたり継続してきました。  
今回、その活動成果を公表できる機会をいただき、信田朝次氏と郷孝夫氏の歴代会長と相談しながら研究成果を紹介し、また、今後の活動予定をお伝えいたします。



昭和30年(1955)頃の黒野城跡  
西側土塁と堀



明治28年(1895)写「黒野城下家中屋敷図」  
「岐阜市黒野史誌」より



昭和30年(1955) 黒野城本丸跡



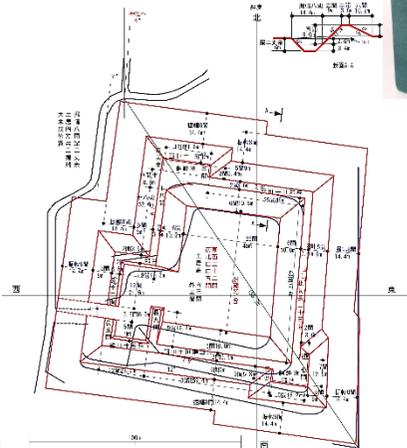
明治初期の5ヵ村絵図  
(郷和彦氏所蔵)を合成

(黒野村・下鶴飼村・折立村・古市場村  
・今川村)中央左の整然とした地割りの  
の所は城下町遺構が残る黒野村



昭和14年(1939)  
「黒野村土地宝典」より部分

「岐阜市黒野史誌」  
昭和62年(1987)発行  
黒野の郷土史 全1386頁



本丸推定復元図作成



黒野城下町  
ジオラマ  
会員製作



平成25年(2013)  
解体前のトイレ



昭和48年(1973)  
黒野城跡西側入口





父 加藤光泰画像  
東京大学史料編纂所所蔵

## 甲斐国から黒野へ国替え

貞泰の父光泰が3年間、甲斐国（24万石）の国主であったとき、朝鮮で病死。5ヵ月後の文禄3年（1594）正月17日付け、太閤秀吉命で黒野へ所替え。

厚見郡内2万5千292石、方県郡内1万4千700石、合わせて4万石を領知するよう命じられた。

亡き父の6分の1への減封で、甲斐での家臣も6分の5をリストラしての所替えでありました。当時は秀吉による朝鮮出兵（文禄の役）で、国内が疲弊している時で、立派な城を築く状況ではなく、厳しい所替えでありました。

甲斐から家臣団や家族などが多数やつぎにましましたが、多くが父光泰の代に採用した美濃出身者でした。

## 父加藤光泰

父光泰は、齋藤龍興に仕えていましたが、齋藤氏没落後、尾張の織田信長は美濃衆との戦いで、光泰の活躍を注目していました。秀吉の仲介で拜謁が許され、召し抱えられて秀吉の家臣になりました。浅井長政の横山砦の攻防で足に重傷を負い、竹中半兵衛に助けられました。以後、数々の戦で功績を挙げ、各地の城持ちになり、最後は甲斐国主24万石まで出世しました。太閤秀吉の五大老・五奉行に次ぐ家臣として活躍していた武将でした。

加藤家の由来によると

当家は藤原鎌足、利仁の末裔。源氏の再興で伊豆で拳兵した源頼朝に加わり、鎌倉幕府で代々甲斐や関東の地などで活躍。貞泰の祖父景泰は土岐氏に仕え70貫の小名主。

父は加藤光泰（作内）

で美濃国生まれ。齋藤龍興に仕えていたが、齋藤氏没落後は信長に認められ、豊臣秀吉に仕え、各地を転戦し、武功をあげ、最後は甲斐24万石の国主にまで出世する。

秀吉による朝鮮出兵の文禄の役では、石田三成らと撤退論で争うも陣中で病死。三成による毒殺

## 岐阜出身武将加藤貞泰

黒野城と加藤貞泰公研究会長 河口耕三

説も流布しました。

光泰は、遺言に「拙者の領国甲斐は肝心要の国であるし、息子の貞泰は若年（14歳）なので、領地を返上し、近くの国を与えられるように秀吉に申し上げて頂きたい。何分とも息子のことをお願い申す。病気が原因で果てるのは無念である」と

浅野長政に託しました。家督を継いだ貞泰は4万石に減封となり、美濃国黒野に国替え、新たに城を築いた。美濃は加藤氏ゆかりの地、秀吉から里帰りの温情があったものと思われています。

加藤家の事績を記した資料に「北藤録」「大洲秘録」や「加藤光泰貞泰軍功記（郷孝夫氏解釈）」などがありますが、いずれも貞泰の出生地は近江国磯野村（現長浜市高月町）が定説でした。研究会員が高野山で嫡男泰興造立の判読困難な墓碑から指でなぞって「岐阜橋詰」の文字に触れたという報告から、後日、他の会員4名で現地入りし墓標を水洗いしたところ「生国濃州岐阜橋詰」と刻まれていて驚きまし

# 「字いわれの事」

抜粹（江戸時代）

・鶉飼七郷、九郷なりし事。太古今川町有り。是に市有。その時、上立にも町。今川の市上立へ移り、事の他繁昌。その町、市神榎木にいわいこみ、よってその町神町という。それより今川元市場を古市場と名付け、二郷にわかれ候。

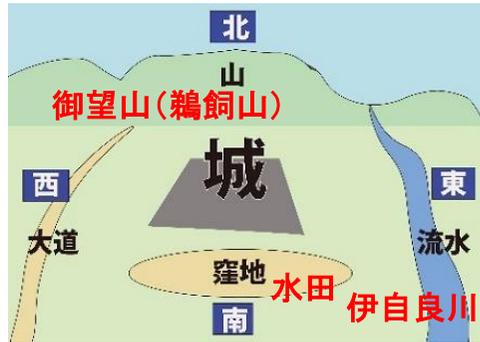
・立村、上下有り。上立町、神町通り、ほろ町通、円万寺通と有り。

その後慶長7年春、加藤左衛門尉様御城を築き御越しなられ候節、上立を黒野と名付け、下立を折立と名付け、その時町所を替え、町通り家中屋敷と成り、さて、新町下に出来、その後所替えなられ候。

黒野 玉木和廣氏所蔵

# 築城に適した黒野の地形

中国、陰陽道の風水思想（四神相応）によって考えられた理想の縄張の地理。黒野は城作りに適している所。



参考:書籍 「イラスト図解 城」  
監修 小和田哲男氏より作成

# 貞泰が築いた城下町



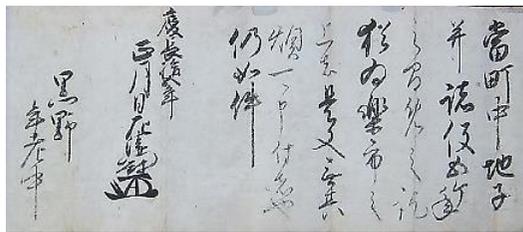
文禄3(1594)年、豊臣秀吉から厚見郡と方県郡に4万石の領地を与えられ、甲斐国からやって来た加藤貞泰は黒野城を築城しました。築城中の4年間は西改田の山田ノ城(現教徳寺)に仮住まいしていました。城郭は平城で風水思想を取り入れた配置。本丸を中心に三重の堀の輪郭式の郭です。黒野に入る前に居た甲斐の躰躰ヶ崎館の郭に似た城です。私は3年かけ、地元に残る古図の家中屋敷図や慶長検地帳を基に実地踏査をして黒野城下町の推定図を作成しました。

## 素描

### 貞泰が築いた城下町

黒野城と加藤貞泰公研究会長 河口耕三

この調査過程で、北東鬼門側の竹やぶに外堀と土塁跡を発見しました。400年の時空を超えた当時の遺構に出会えたこと、4万石の城郭の規模に驚きと感動を覚えたことは今も忘れません。家中屋敷は加藤家一族を中心に、知行の高い家臣から下級武士へと配置されています。この中には、日本古式泳法12流派の一つ、主馬神伝流(愛媛県指定無形文化財)創始者の加藤主馬光尚や、陽明学の祖中江藤樹を育てた祖父、中江徳左衛門吉長が住んでいました。貞泰は城下町繁栄のため、15の町屋敷に築市の免許を出し、土地の年貢と諸役を5年間免除し自由で商売できるようにしました。しかし、その成果を見ることなくわずか半年で伯耆国米子城へ2万石加増6万石で国替えになってしまいました。在城16年、一代限りの城下町づくりは未完成のまま終焉、家臣団や従者が去り、もとの寂しい村になりました。しかし、隣村の正木より移した黒野御坊(後の黒野別院)をはじめ、貞泰が整備した寺社群は、その後の寺町黒野の繁栄につながりました。

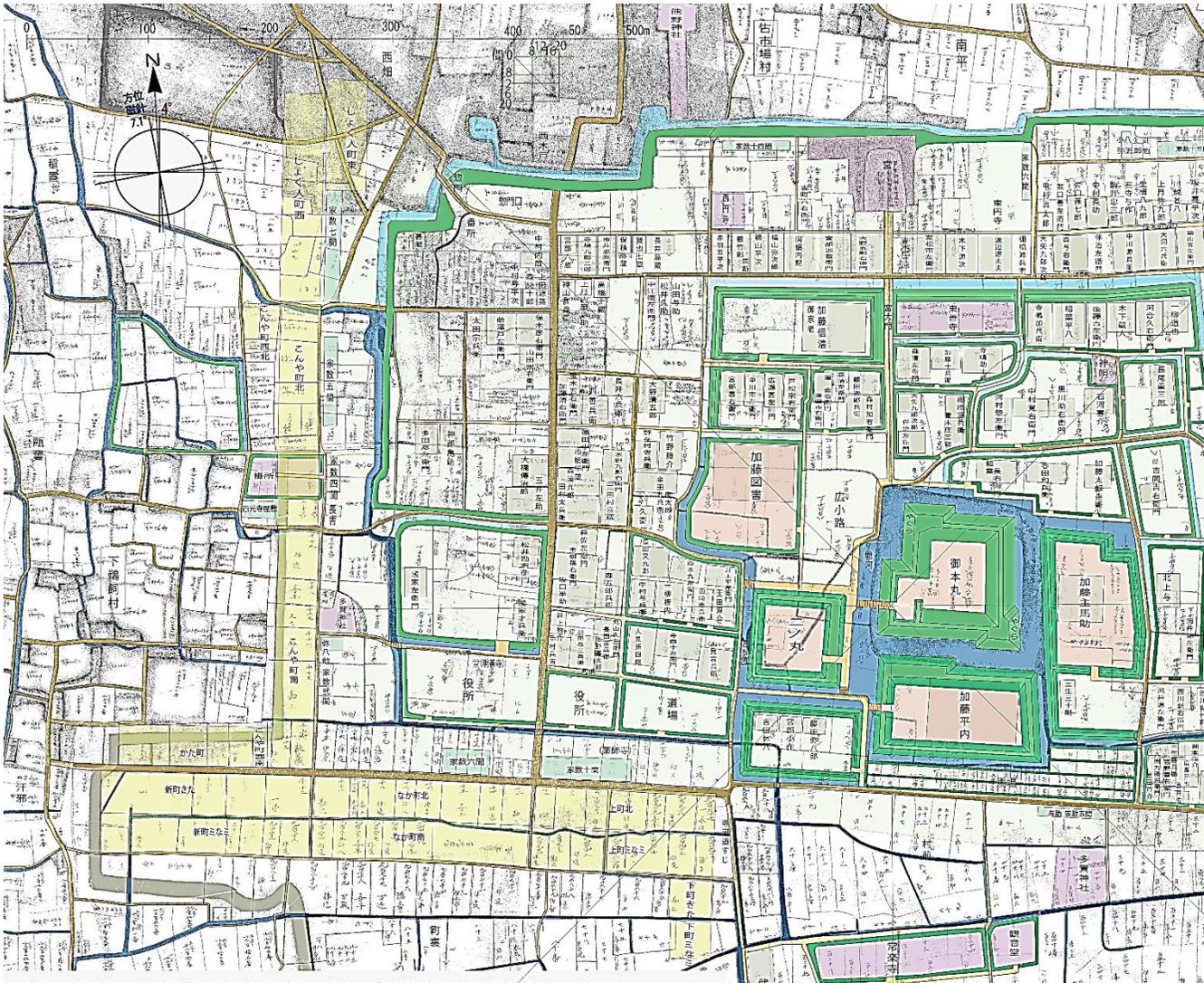


黒野年中宛て貞泰書状  
「楽市政令」慶長15年正月  
崇福寺所蔵



「黒野城下 家中屋敷図」明治28年写し  
黒野 玉木和廣氏所蔵

貞泰は城下町を繁昌、繁栄のため、城下南西(現西町・南町)の15の町屋敷に楽市の免許を出し、5ヶ年間、労役や税を免除し、自由に商売ができるように楽市としましたが、僅か半年の実施で米子へ所替えになってしまいました。



「黒野城下 家中屋敷 推定図」

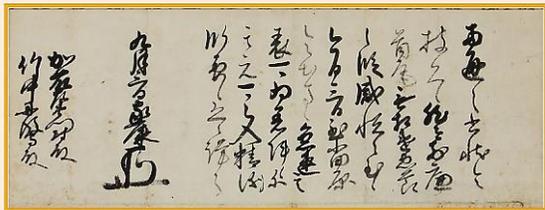
9 「明治時代黒野4カ村絵図を合成」、その上に「黒野城下 家中屋敷図」を作成

# どうする貞泰！関ヶ原

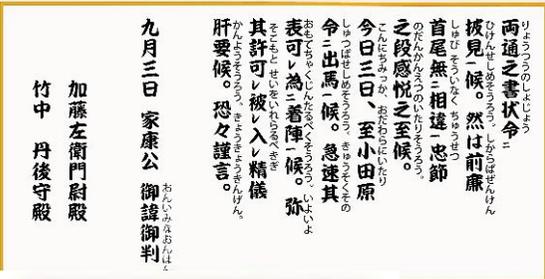
慶長5年(1600)加藤貞泰(20才)は、岐阜城主織田秀信の指揮下にあつたため、上杉討伐に参加できず、代わりに弟加藤平内(16才)を人質として江戸へ差し出し、徳川家康に忠誠を誓いました。石田三成の指示で西軍の前線尾張国犬山城へ入城するも、貞泰は当初から義兄の竹中重門と家康に味方すると決めており、加勢衆を家康に味方するよう説得しました

## 九月三日付 加藤貞泰・竹中重門宛て家康書状

『二通の書状を披露しました。前から打ち合わせていた通り、忠節を尽くしておられること大変うれしく思います。今日三日、小田原へ向けて出馬しました。急ぎそちらへ着陣することとします。あなた方も、いよいよ精を入れ働かれることが大切です。』



加藤貞泰・竹中重門宛て徳川家康書状



加藤左衛門尉殿  
竹中 丹後守殿

九月三日 家康公 御諒御判



徳川家康画像  
岐阜市西荘 立政寺所蔵

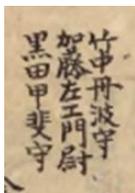
貞泰は犬山城を出て、家康の指示で大垣城への夜討ちを命じられ本田に布陣。領内木田尻毛の渡しに鵜舟を並べ舟橋を架ける。12日、家康が岐阜に到着。赤坂の陣所で家康に謁見。参戦を命じられました。



「慶長5年濃州関ヶ原図」部分  
(国立公文書館所蔵「武家事紀」所収)

## 九月十五日 関ヶ原合戦

竹中重門(半兵衛嫡男)  
加藤貞泰(光泰嫡男)  
黒田長政(官兵衛嫡男)



## 九月五日付 貞泰宛て家康書状

『念の入った書状、喜び祝います。犬山の問題、貞泰殿の知恵の働きで早々に解決したこと大変満足です。先頭に立つての参陣すばらしいことです。清見寺に着きましたが、やがてそちらに着陣します』と返書。

犬山城開城の中心人物が貞泰であることを証明している。

## 九月四日頃〜十四日



国宝犬山城



加藤貞泰画像  
大洲市 龍護山曹溪院所蔵

現在、日本最古の国宝犬山城が現存するのは、貞泰ら加勢衆が戦を避けた行動のお陰だと言っても過言ではありません。犬山城主石川貞清は、城を開城後、関ヶ原本戦では西軍宇喜多隊に加わり戦いました。

関ヶ原合戦に参加した大名の中でほぼ最年少です。有能な一族重臣の支えもあったことでしょう。

## 家康書状

貞泰宛て家康書状は、7月20日～9月5日の間に5通あります。この間に岐阜城が落城しています。またその間に家康家臣の加藤太郎左衛門、酒井忠世、永井直勝、井伊直政や本多忠勝などから家康の指示を伝える書状8通が確認できます。



## 本戦と その後の貞泰

右下の関ヶ原合戦図は、江戸時代の儒学者、軍学者の山鹿素行が編纂した「武家事紀」に収載されている布陣図で、多くの合戦図の中でも古い図と言われています。

加藤家の家史「北藤録」にも同じ配置の「濃州関ヶ原合戦之図」があります。加藤家の史料によると、本戦では二番隊で島津隊と戦った様子が記されています。

東軍勝利後は、家康にお供し、三成の佐和山城へ向かい、その後、稲葉貞通と共に長束政家の水口城攻めを行い、政家は城を明け渡しました。

貞泰らは大坂までお供し、お暇を下されて黒野へ帰りました。

今年のNHK大河ドラマは「どうする家康」。慶長5（1600）年9月15日は、天下分け目の関ヶ原合戦。その前哨戦は知られていません。ここでの紹介は、岐阜城主13万5千石の織田秀信を支える美濃武将の動向です。徳川家康が会津上杉征伐の軍令を発行。秀信や美濃衆の多くが石田三成方に味方する動きがある中、黒野城主加藤貞泰は、亡父光泰と三成との対立や豊臣秀次事件で三成に恨みを抱いていたことから東軍の家康に味方することを決断。弟加藤平内を家康の下へ入

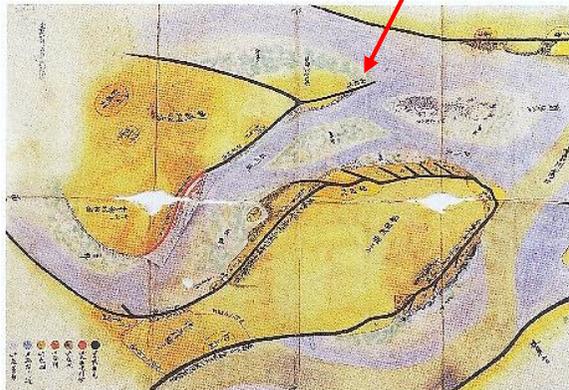
## 素描

### どうする貞泰！関ヶ原

黒野城と加藤貞泰公研究会長 河口耕三

質として送りました。その頃、三成は西軍の前線の尾張犬山城に貞泰（4万石）、竹中重門（6千石）、関一政（3万石）、稲葉貞通（4万石）に加勢を命じました。貞泰と重門は義兄弟の關係（秀吉の軍師竹中半兵衛と加藤光泰は同じ美濃出身、戦場での絆もあり、半兵衛の長男重門の正室に光泰の娘）。関ヶ原合戦前、家康から全国の武將に送った180通の書状の中に貞泰宛てが5通。武將ベスト10に入り、家康にとって犬山城の動向がこの戦いの重要ポイントであった証しでありました。貞泰は加勢衆に家康へ味方するよう計らう。通説に、岐阜城が落城したから家康に寝返ったとあるのは間違いです。現在、国宝犬山城が現存するのは貞泰らが、ここを戦場とせず無血開城したおかげです。関ヶ原本戦で貞泰は黒田長政・竹中重門と共に丸山烽・火場付近に布陣（山鹿素行著の武家事紀などの合戦図に、3名の武將名）。戦後の処分表彰では、貞泰は4万石と黒野城は安堵、参戦した弟平内も美濃で3641石の旗本になりました。

加藤貞泰が領民と築いた「尉殿堤」の名



「近嶋村新堤絵図」明和5年(1768)頃  
岐阜県歴史資料館所蔵

昭和15年(1940)締切前の  
長良川・古川・古々川  
「わたしたちの岐阜より」→  
(ラインを追加記入)

昭和初期まで  
長良川は三川に分流



尉殿堤跡(じょうどのつつみ)



昭和15年(1940)建立  
「尉殿堤記念碑」

2015年に解体され近くの則武  
新田天満宮に移築された

慶長5(1600)年、関ヶ原合戦で徳川家康が勝利し、岐阜城を廃城し加納城を築くため、黒野城主加藤貞泰らに普請奉行を命じました。加納城主は奥平信昌で妻は家康長女の亀姫です。岐阜城主であった織田秀信領は加納領になり、厚見郡内などの貞泰領と入れ替えも行われました。同6年、貞泰は領内の生産性と領民を守るため治水事業に着手します。その一つが安八郡内で、郷士説田長助に命じた堤の修復工事です。同8年、彦根城の築城に参加。自領の整備どこ

## 素描

### どうする貞泰！洪水対策

黒野城と加藤貞泰公研究会長 河口耕三

ろではない大名でした。岐阜では、当時の長良川は三川(井川、古川、古々川)に分流し、貞泰領内を流れる古々川の洪水に悩まされており、貞泰は同13年、川北の村民と共に古川に堤を築き、古々川を締め切る工事に取りかかりました。しかし、対岸の近ノ島村に亀姫の領地があり、訴えたので国替えになったといわれています。移封翌年の同16年の洪水で築いた堤が決壊。国替えがなかったら、堤は修復していたと思うと岐阜の発展は変わっていた心から喜んでいきます。

と想像し残念です。築いた堤は、左衛門尉の尉から尉殿堤(じょうどのつつみ)とい領民に感謝されました。以後、約330年にわたり三川が流れていまましたが、昭和14(1939)年、長良橋下流で古川締め切り工事が完了。翌15年「尉殿堤記念碑」が建立され、碑文には貞泰や亀姫が記されました。平成29年、記念碑は則武新田天満宮境内に移設され、翌年「則武輪中跡・尉殿堤跡」が岐阜市史跡に指定されました。400年の時を経て貞泰の功績が認められたことを心から喜んでいきます。

### 亀姫領地

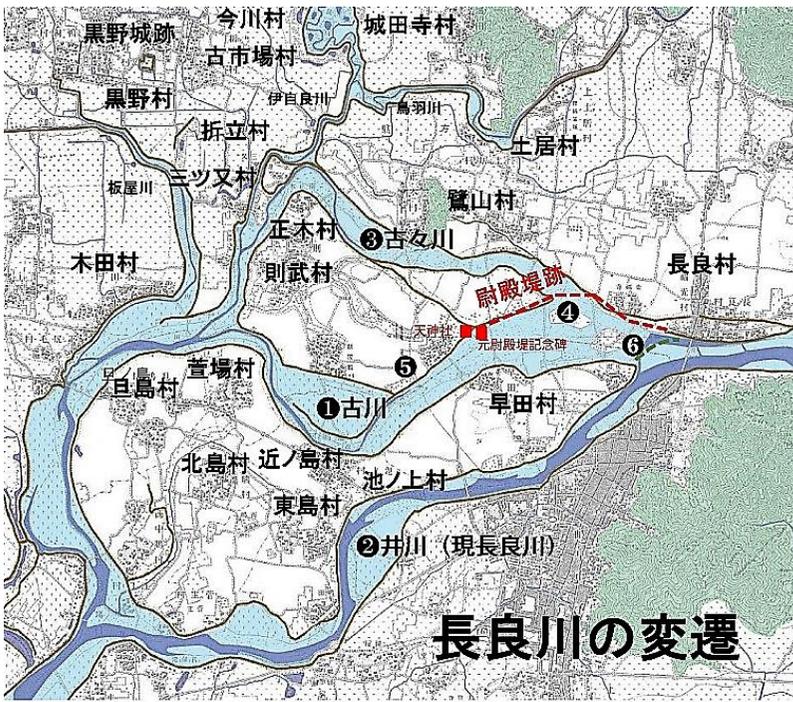
慶長6年美濃一國郷帳「岐阜県史 史料編より」

一 高式千石

内

(信昌)(亀姫)  
奥平作州御内義

千四百五拾壹石九斗 厚見郡 上加納村  
五百四拾八石壹斗 同 權之嶋村



明治24年測量の2万分に1地形図に旧河川を記入



旧河川跡が見えます 昭和22年 国土地理院より



安八町史跡「大明神の耐殿堤」

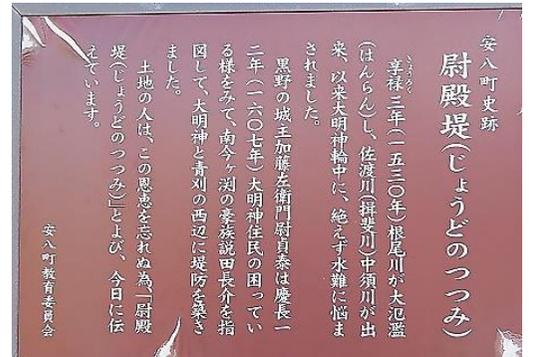
- 長良川は、
- ① 最も古い川筋である古川
  - ② 天文4年(1535)の大洪水で出来た井川
  - ③ 慶長13年(1608)古川の北岸に「耐殿堤」が築かれる
  - ④ 慶長16年(1611)の洪水により耐殿堤の一部が消滅し、古々川が貫通する
  - ⑤ 則武輪中堤が築かれる
  - ⑥ 昭和14年(1939)長良川締切工事完了

加藤貞泰が築いた「耐殿堤」は、慶長15年(1610)米子へ所替えの翌年、大洪水で古々川が貫通し、昭和14年(1939)迄の329年間、古川、古々川の締切完了まで三川が流れていました。

江戸時代末の古文書に、川北13ヵ村が共同で「耐殿堤」修復工事を行っていた記録が見つかりました。



令和元年4月、則武新田天満宮に移設された「耐殿堤記念碑」



# 貞泰母・妻の人物像

加藤家一族は、祖父景泰の代のとき、同郷の一柳（ひとやなぎ）家と、お互いに姻戚関係を結んでいます。また加藤家親族間でも多くが婚姻で結ばれており、一族の絆が強い家臣団でありました。

加藤貞泰の父は加藤光

泰、母は一柳藤兵衛の娘（恵照院）。その兄は一柳右近大夫可遊で豊臣秀吉の黄母衣7人衆の一人、桑名城主6万石、羽柴秀次の後見役、秀次事件で切腹。貞泰は初め作十郎、4万石黒野城主の時、従五位下左衛門尉に任ぜられる。米子へ国替えで左近大夫将監に就任。

貞泰の妻は継室（後妻）で小出吉政の娘。吉政は尾張国愛知郡中村生まれ。母栄松院が、秀吉の生母大政所の妹で秀吉は従兄にあたる。早くから秀吉に馬廻として仕え、その後、武将として活躍

## 貞泰母・妻の人物像

黒野城と加藤貞泰公研究会長 河口耕三



し但馬出石藩主になる。

平成28年に黒野城跡の発掘調査で出土した菊丸瓦は、秀吉築城の大坂城や聚楽第の瓦と似ており、貞泰がこの瓦を使用したのは、吉政を通じて秀吉との縁があることの裏付けでもあります。

貞泰の人物像については、仁愛深く節義を重んじ、道に志篤く、政事怠らず、賞罰を正して士民を恵み、又暇日には詩を賦し歌を詠み、連歌を好むなど風流人であったとも伝えられ、文武に長けた領主でありました。16年間の黒野在城の事績には、築城、関ヶ原合

戦で家康に味方、加納城

や彦根城の普請、家臣団改革、領内の洪水対策築堤（尉殿堤）、城下町屋敷に築市制定、正木坊移転などがあげられ善政を行った領主でした。

米子から伊予国大洲への国替えにあたり、徳川二代将軍秀忠は、旧恩を思い、禄10万石に加増したかったそつでした。貞泰は、子や家臣への教育も熱心で、大洲藩の加藤家が明治維新まで250年間13代続いたのは、ひとえに初代貞泰の人柄と能力が子孫に引き継がれた有能な領主だったからと想っています。

## 貞泰・重臣に礼敬

貞泰の家老加藤信濃守光吉は、元一柳右近の嫡男にて光泰室の甥なり。光泰始め男子無きにより、婿養子とする。よって姓を加藤と改む。

その後貞泰出生により、信濃守退いて貞泰に譲り、自ら貞泰の家臣となる。貞泰礼敬する事、賓客の如しといえり。（加藤氏家史「北藤録」より）

若い貞泰は、叔父（父光泰弟）の加藤図書光政と義兄加藤信濃の良き親族重臣に支えられ育つたことと思われまふ。

加藤図書は、幼くして仏門に入り浄土宗の僧となっていました。光泰が勃興するに及んで、光泰より加藤宗家の補佐をするようにとの、再三のすすめに辞退し難く、環俗して光泰の家老となったものであると記されています。図書の嫡男加藤主馬の助光尚（貞泰と従兄弟）も重臣のひとりで豪傑でした。

## 父光泰の死去

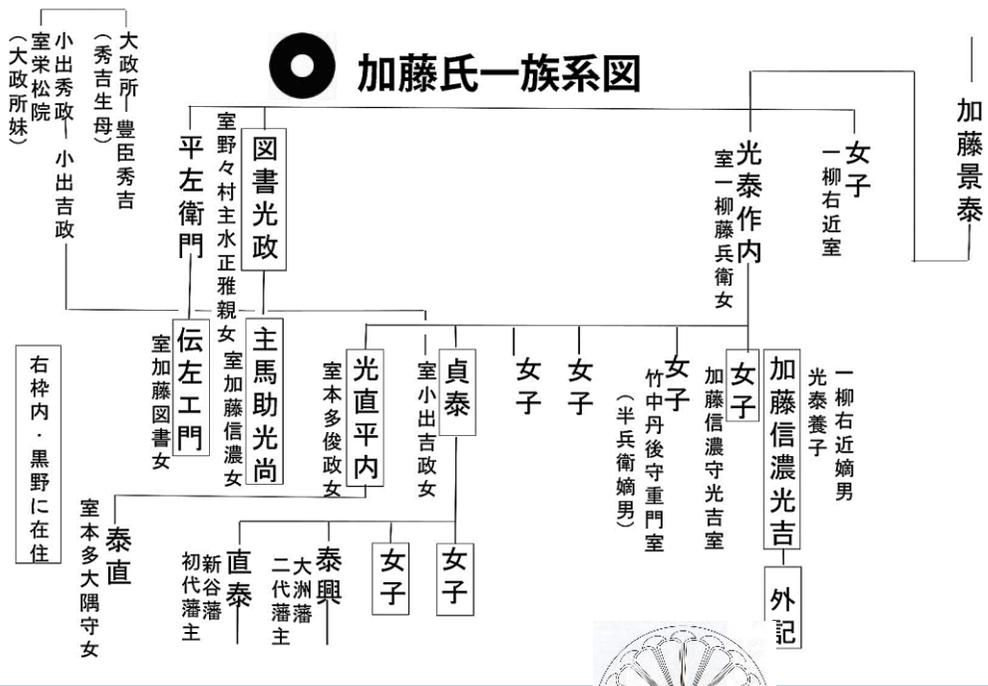
### 黒野に曹溪院建立

父光泰の朝鮮での死去は貞泰にとつて最大の悲しみでありました。遺骨を甲州山梨郡板垣村浄土宗善光寺本堂裏に葬り、その後、遺骨を禅宗指月山曹溪院に葬りました。貞泰黒野へ所替えの時、光泰供養のため遺骨を取り分け善光寺の弟子添え来て葬りました。妙心派の九岳和尚が指月山曹溪院の開祖でした。

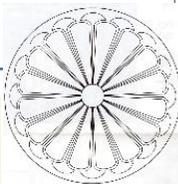
米子へ移り、堂を建立し曹溪院と号し、九岳和尚開基としました。大洲へ所替えの時、墓を

岐阜新聞 令和5年2月7日 県内版

# 加藤氏一族系図

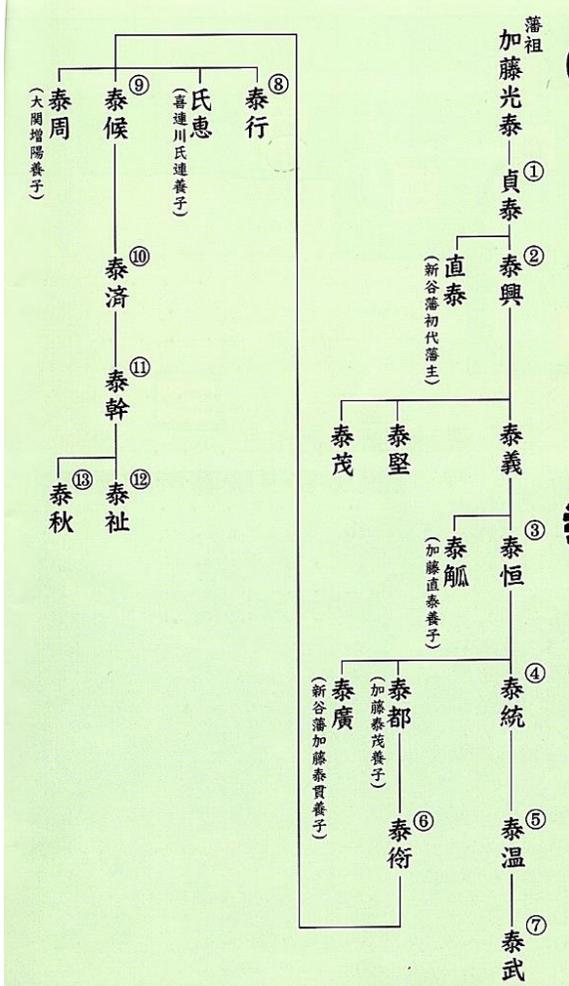


貞泰祖父の景泰以前は、加藤家の家史「北藤録」と「美濃国諸家系譜」に違いがあります。



黒野城跡升形虎口で出土「菊丸瓦」平成28年(2016)発掘調査見学会にて

## 大洲藩主加藤家略系図



## 貞泰、光泰供養

貞泰は、父光泰と同様に神仏崇敬が厚く、黒野在城中、そのひとつに鏡島の臨濟宗妙心寺派乙津寺には、光泰位牌、肖像画等を寄進。他に貞泰寄付の大屏風1隻(狩野永徳画と申し伝え)、大鋤簾(じよれん・農具)があったが、昭和の空襲で焼失してしまいました。

移し世々菩提所としました。甲斐善光寺の光泰公の墓、米子の清洞寺跡、大洲龍護山曹溪禅院は、いずれも市の史跡や文化財に指定されていますが、残念なことに黒野に葬られた地は不明であります。

「大洲のお殿様 加藤家十三代の足跡」より 大洲市立博物館発行

# 7つの活動紹介

# 研究会の地域啓発活動

子ども版]

番号(1~3)を口を書いてください。

1  どの人ですか?  
かとうぼんやす  
直三 3. 加藤貞泰

2  ですか?  
さんかくもん  
(三角紋) 3. ◎ (蛇の目紋)  
じのめちん

3  次のどれですか?  
さい  
歳 3. 25歳

4  どの人ですか?  
かとうみつやす  
藤嘉明 3. 加藤光泰

5  次のどれですか?  
ねんかん  
6年間 3. 26年間

## 紙芝居制作

2012年(平成24年)

1 黒野のお殿さま



2013年(平成25年)

2 お堀から出てきた観音さま



2016年(平成28年)

3 小川市の話



2018年(平成30年)

4 関ヶ原



2022年(令和4年)

5 尉殿堤



2022年(令和4年)

6 於母ヶ池物語



## 史跡案内



「黒野歴史探訪」黒野まちづくり協議会



## 黒野城下町など 史跡案内板設置場所



設置年度	案内板の名称	(場所)
H23	① 黒野城跡本丸	(黒野城跡入口)
H24	② 黒野城ゆかりの寺院・堂(あそか苑前)	
	③ 茶市の町屋敷跡	(西町交差点)
	④ 黒野城下町案内板	(平野病院前)
	⑤ 黒野城下町案内	(黒野城跡入口)
	⑥ 黒野城下町案内	(作町バス停・宮部宅)
	⑦ 南東橋跡	
	⑧ 百々ヶ峰遠望 本丸土塁と堀	
	⑨ 橋下に遠方の山など表示	(黒野城跡)
	⑩ 船来山など遠望	
H25	⑪ 岐阜市史蹟・黒野城跡140m(元KVK角西)	
	⑫ 茶師堂	(南町・西町自治会)
	⑬ 城郭外堀跡	(多賀神社境内)
	⑭ 西木戸跡・堀跡	(島部宅小屋)
	⑮ 黒野城ゆかりの遠跡・寺院(東木戸)	
	⑯ 北西柵跡	(黒野城跡・免徳寺表後・設楽)
H27	⑰ 黒野城跡 道案内	(今川黒道池)
	⑱ 小川市跡とカ女の力競べ(黒野神社前)	
H28	⑲ 電柱看板 加藤貞泰	(関ヶ原古戦場)
	⑳ 黒野城情報板	(黒野城跡)
	㉑ 黒野城の外堀・土塁跡	(黒野城跡)
H29	㉒ 喰峰松の由来	(文人)
H30	㉓ 芭蕉寸木句碑&道案内2箇所	(三ツ又)
	㉔ 蛇の目紋・黒野城跡	(折立黒道池)
R1	㉕ 賛歌あり黒野城下町(平野病院前)	
	㉖ 中江藤吉育ての祖父屋敷跡	(多賀町)
R2	㉗ 堀船造・跡之助生誕地	(作町御家)
R3	㉘ 「黒野城跡」大型看板	(黒野土塁)
R4	㉙ 「黒野城跡」に咲くタンポポの物語	(南黒土塁)



# 「ふるさと黒野検定 子ども版」

第1回 「ふるさと黒野検定」

次の問1～問10について、正しいと思うものを○で囲んでください。

問1 黒野にやってきたお殿さまは、次のうち誰ですか？  
 1. 豊臣秀吉  
 2. 斎藤道三

問2 黒野のお殿様の家紋は、次のどれですか？  
 1. ○(丸紋)  
 2. △

問3 お殿様が黒野に、乗られたのは、次のうち何歳ですか？  
 1. 9歳  
 2. 15歳

問4 お殿さまのお父さんの名前は、次のうち誰ですか？  
 1. 加藤貞泰  
 2. 加藤清泰



黒野小6年生  
社会学習  
フィールドワーク

加藤貞泰公の善政と郷土黒野の誇りを地域の子どもに知ってもらおうと七つの活動実績があります。

その一つは紙芝居の制作と上演です。第一作の「黒野のお殿さま」は、色塗りが黒野小児童で指導は岐阜大教育学部学生が分担し完成。後日、児童が発表会や障害者施設への訪問紙芝居も実現。

その後、「お堀から出てきた観音さま」「小川市「関ヶ原」「尉殿堀」を制作、昨年「於母ヶ池物語」を岐北中美術部と協同制作。紙芝居は地域の公民館や老人会などで上演しました。

## 研究会の地域啓発活動

黒野城と加藤貞泰公研究会長 河口耕三

二つ目は、「ふるさと黒野検定子ども版」の実践です。対象は黒野小4年～6年の児童で、解答を研究会で採点、3月に全校児童の前で表彰。その後「黒野検定子ども版100問百答集」を刊行し全校児童に配布。

三つ目は、黒野小児童の社会学習で城下町の史跡を歩いて巡るフィールドワークです。会員が武将姿で案内します。

四つ目は、「黒野まちづくり協議会」の「黒野歴史探訪」です。7コースを企画し会員が手分けしてガイドしています。また、各種団体の必要に応じて城下町巡りも実施しています。

五つ目は、史跡案内板の設置です。現在、関ヶ原を含め、大小28枚が街角で活躍中です。

六つ目は、会員らで作詞・作曲した賛歌あゝ黒野城下町のCDと空撮を含むDVD制作です。

七つ目は、研究成果をまとめた数種類の書籍を発刊し、図書館などに寄贈、PRに努めています。いずれも会員の熱意、創意、工夫と協力のたまもので、会の目標実現に繋がりが満足しています。

# 素描

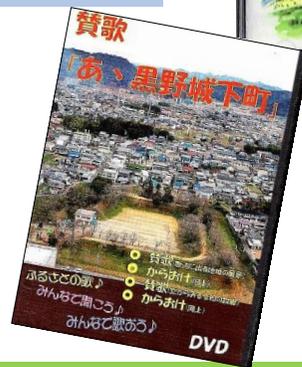
岐阜新聞 令和5年2月14日 県内版



DVD発行



CD発行



賛歌「あゝ黒野城下町」制作

# 大洲と交流 顕彰碑設置

## 大洲へ転封の貞泰

加藤貞泰は、伯耆国(鳥取県)米子城に7年間在城し、元和3年(1617)7月、伊予国(愛媛県)大洲へ6万石で転封となり、8月に大洲入りしました。37才でした。家臣132名と家族・従者が移りました。大洲在城中、大坂城普請手伝いを命じられました。元和8年(1622)3月、大洲藩初代藩主貞泰は、42才のとき、妻子と江戸屋敷へ移りました。元和9年(1623)5月26日江戸屋敷にて病死、行年44才でありました。

## 大洲史談会一行来訪 記念碑贈呈式典・交流会

加藤貞泰が大洲入城から395年後の平成24年(2012)、大洲と黒野との交流が始まりました。それは愛媛県大洲市の歴史研究団体「大洲史談会」(大正6年(1917)に発足)一行が初代藩主貞泰の黒野を訪ね、貞泰公の顕彰碑を建立、研究会との初めての交流です。



平成16年(2004)に再建された木造天主閣



黒野城跡の顕彰碑



平成24年(2012)11月大洲史談会一行来訪



平成28年(2016)11月 大洲龍護山曹溪院一行来訪

## 大洲城とは

大洲城は、肱川中流域に位置する大洲盆地の丘陵上に築かれた平山城です。中世の頃は宇都宮氏の居城。天正13年(1585)の四国平定後、伊予国領主となった小早川隆景。その後、城主は戸田勝隆、藤堂高虎(7万石)、脇坂安治(5万3千5百石)の後に貞泰が入城しました。天守を含め18の櫓がありました。



復元大洲城天守閣(木造4階建て)

# 加藤貞泰が結ぶ縁

初代大洲藩主加藤貞泰（1607-1678年）は、岐阜県黒野に生まれ、若き日に黒野城主として活躍した。大洲藩の藩主として、大洲城を築き、藩政を治めた。大洲藩の歴史は、加藤貞泰の生涯と密接に関連している。大洲藩の歴史を研究し、その意義を明らかにすることは、大洲市の歴史を深く理解するために不可欠である。

大洲藩の歴史を研究し、その意義を明らかにすることは、大洲市の歴史を深く理解するために不可欠である。

## 両地域の歴史研究会交流



大洲藩主加藤家の蛇の目紋をあしらった鉢巻を身にまき、大洲史談会と記念撮影する岐阜市の歴史研究会メンバー



平成25年(2013)10月2日 大洲城訪問



## 大洲市を訪問

「大洲史談会」来訪の翌年、今度は黒野からの訪問団が大洲市へ。大洲はNHKの朝ドラ「おはなはん」や映画「男はつらいよ・寅次郎と殿さま」の舞台にも。市内を流れる肱川（ひじかわ）では毎年夏には鵜飼が行われ、岐阜市との交流もある城下町です。

## 訪問翌日の10月3日の愛媛新聞

大洲藩主加藤家の蛇の目紋をあしらった鉢巻を身にまき、大洲史談会と記念撮影する岐阜市の歴史研究会メンバー

加藤貞泰の最終の移封地は伊予国（愛媛県）大洲城。幕末まで13代続いた加藤家の初代大洲城主という縁で、平成24年、同県大洲市の歴史研究団体「大洲史談会」から「加藤貞泰公顕彰碑」と上杉潤顧問の油彩画「大洲城」が寄贈されました。碑は黒野城跡に建立、大洲から28名の参列を得て除幕式。式典後、城跡の会館にてジオラマなどで大洲と縁のある屋敷跡などを説明。その後、幕末に大洲藩の蒸気船いろは丸と坂本龍馬に関わりがあった藩士の国島六左衛門ゆ

## 貞泰 大洲入城400年記念 顕彰碑寄贈

平成29年（2017）加藤家入城400年記念の年に「貞泰公顕彰碑」を大洲に寄贈、本丸跡に設置されています。



大洲城 本丸跡の顕彰碑

# 素描

## 大洲と交流 顕彰碑設置

黒野城と加藤貞泰公研究会長 河口耕三

かりの国島家（岐阜市古市場）を見学。各位の熱心な姿に「殿さまのふるさとへ」の熱い思いを深く感じました。

今回の縁で遠く大洲史談会と研究成果、情報のやりとりによる交流が始まりました。

史談会を迎えた翌年、岐阜から24名で大洲を訪問。加藤光泰、貞泰の菩提寺龍護山曹溪院や国島六左衛門の墓、中江藤樹の修養道場「至徳堂」、加藤家住宅跡等を見学した後、大洲城本丸へ。

平成16年、大洲市民らの浄財で、当時のままの木造天守を再建、屋根瓦は寒さに強い岐阜県産の美濃の燻し瓦で葺かれたとの説明もありました。お互いの研究発表の後、大洲市長、教育長も出席の歓迎交流会。ほんとうに忘れられない有意義な訪問となりました。

平成29年「加藤家入城400年記念」の年に、「貞泰公顕彰碑」を同市へ贈りました。正面の題字は細江茂光岐阜市長（当時）が碑筆。側面には「貞泰公大洲入城400年記念」天正8年、生国濃州岐阜橋詰」と刻まれ、大洲城の本丸に建てられました。400年の歴史が蘇り感無量です。

# 貞泰公没後四百年記念行事

貞泰公の没後四百年を記念し、岐阜市3大城跡のひとつ黒野城と岐阜市生まれの戦国武将加藤貞泰を広く知っていただく目的で記念講演会とパネル展を開催します。

岐阜生まれ一代限りの城主  
美濃・黒野城の若きお殿さま  
加藤貞泰公没後400年記念  
『どうする！貞泰』

記念講演会

入場無料・要予約 定員200名

- ◇ 1部 紙芝居『殿殿様』上演
- ◇ 2部 『加藤貞泰と岐阜市』  
講師 内総 徳雄氏  
(岐阜市ふるまふ魅力づくり推進部  
文化財保護課主幹)

日時： 令和5年5月7日(日)  
時間： 14時～16時30分頃  
会場： みんなの森 ぎふメディアコスモス  
みんなのホール

記念パネル展

入場無料・予約不要

- ◇ 加藤貞泰・黒野城の資料・写真パネル  
ジオラマなど約100点
- ◇ 徳川家康から貞泰宛て書状(写)6通

日時： 5月10日(水)～12日(金)  
時間： 10時～19時  
会場： みんなの森 ぎふメディアコスモス  
みんなのギャラリー

小冊子「どうする！貞泰」発行  
講演会参加者に進呈  
岐阜新聞(要約)1月、27日に9版連載文を  
掲載する(紙原、資料、写真など寄附)

「貞泰公没後400年記念」行事チラシ

## ◇ 記念行事のご協力に感謝

貞泰公没後400年記念行事の開催にあたり、岐阜市ぎふ魅力づくり推進部の共催、公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団の助成金、及び地域の団体・会社のご協力金にて開催ができましたことに感謝いたします。

また貞泰公の資料提供や掲載・展示許可にご協力を頂きました関係者の皆さま方にお礼申し上げます。

## ● 黒野城に咲くタンポポの物語

黒野城跡の土塁には、黄色いタンポポが3月～6月頃に咲き乱れます。トウカイタンポポなどの在来種のニホンタンポポです。このトウカイタンポポと同種のタンポポが、遠く離れた中国、四国地方でも自生しており、特に鳥取県米子市や愛媛県大洲市では、城を中心とした市街地に花を咲かせています。これは黒野城主加藤貞泰公が、徳川幕府の命により米子城、大洲城へと国替えになったとき、持ち込まれたものである可能性があります。

「この謎、あなたはどのようにだと思いませんか?」「みんな考えてみましょう。」

「平成24年(2012年)5月23日付朝日新聞全国版夕刊」に「タンポポ 殿と国替え? 加藤貞泰 岐阜→鳥取→愛媛 分布、足取りと一致」の見出しで大きく紹介され話題となりました。



### 加藤貞泰公の国替えの足取り



### || タンポポの話 ||

タンポポはキク科タンポポ属の小型の多年草。世界に400種以上があり、日本では約20種が分布しています。

黒野城跡に咲くタンポポは、在来種のニホンタンポポですが、黒野には外来種のセイヨウタンポポも咲いています。

古来、東洋ではタンポポの根は、健胃、解熱、強壮など薬草として利用されてきました。一方、ヨーロッパ産のセイヨウタンポポは、根をハーブティー(タンポポコーヒー)に、葉をサラダに利用しており、日本には食用として明治の初期に持ち込まれ、全国に広まり、在来種と混ざりあったタンポポも増えています。

岐阜薬科大学  
薬草園園長





黒野城跡 南側復元土塁に設置の大型看板

## パネル展の展示物

展示パネル(写真など)で紹介

- ・加藤貞泰公画像(2点)
- ・加藤光泰画像
- ・光泰公、貞泰公位牌
- ・加藤氏と一柳氏系図
- ・加藤氏光泰・貞泰の年表
- ・光泰・貞泰の足跡(日本地図)
- ・貞泰ゆかりの地・寺院・神社など
- ・貞泰生誕地を記した墓石
- ・黒野城跡風景
- ・第2回、4回市発掘調査
- ・黒野古城本丸之図
- ・黒野古城之図
- ・黒野城下家中屋敷図
- ・黒野城下家中屋敷推定図
- ・関ヶ原合戦前哨戦歴史書訂正
- ・徳川家康書状180通ベスト10に貞泰
- ・貞泰宛て家康書状(写し)6点
- ・関ヶ原合戦の足取り
- ・濃州関ヶ原図
- ・関ヶ原合戦陣形図
- ・黒野城に咲くタンポポの物語
- ・ゆかりの寺院(8箇所)
- ・ゆかりの神社(2箇所)
- ・貞泰書状(写し5点)
- ・貞泰領検地帳・貞泰領村名地図
- ・黒野城下家中役人名
- ・洪水を防ぐ築堤「耐殿堤」(30点)
- ・国替え書状(写し)
- ・米子城
- ・大坂夏の陣・冬の陣図
- ・大洲城
- ・黒野城下町ジオラマ

今回が最終回。最近の動きと今後の計画についてお話しします。定例研究会には、他所で活躍中の研究者や新たに研究団体を設立準備の方々も見学に参加されています。シビックプライド活動の広がりを楽しんでいます。

先祖の系図に黒野城主に仕えていたと、遠隔の方が来訪され、城下町の案内に大変感動されました。400年前の黒野に縁があることを思うと研究活動の真利に尽きます。

24年度には、黒野城跡の近くに東海環状自動車道のインターチェンジが

## 貞泰公没後四百年記念行事

黒野城と加藤貞泰公研究会長 河口耕三



開通予定。多くの方がお城見学に来られます。そのため、県道からも見える「黒野城跡」の看板を設置し、また黒野城に咲くタンポポが貞泰国替え先の米子城や大洲城周辺で今も咲いていることから、「タンポポ城」とする運動も展開中です。

また、地元出身者で、渋沢栄一を明治新政府に推薦した郷純造と、渋沢の志を引き継いだ誠之助の親子の生誕地に案内板を設置。また、黒野の方言を調査するなど地域のシビックプライドの醸成にも取り組んでいます。

今年「加藤貞泰公没後400年」。5月7日にメディアアコスモスにて、記念講演会と5月10〜12日にパネル展を開催します。ご興味のある方はぜひご来場ください。

研究会員は現在35名ですが、高齢化で今後の活動の停滞が懸念されます。新たなシビックプライド活動を始めるためにも、新人会員を募集中です。岐阜市外の方も大歓迎です。ご検討いただける方は河口、携帯電話090(1786)6564、電子メールkouzo301@yahoo.co.jpまで、ご一報をお待ちしています。



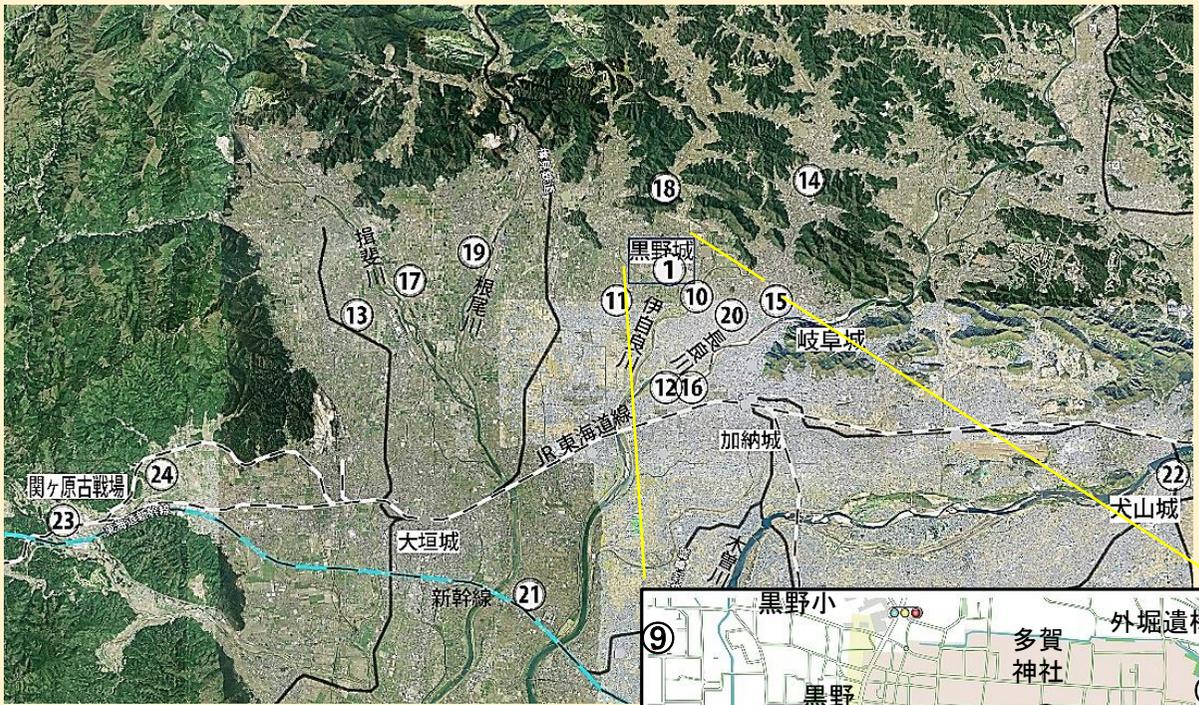
## 貞泰ゆかりの地・寺院・神社など



- ① 黒野城跡 岐阜市史跡。貞泰が築いた一代限りの城、本丸跡は土塁・堀の遺構
- ② 黒野城曲輪 平城、輪郭式、3重の堀、本丸跡と外堀と土塁遺構の一部が現存
- ③ 黒野別院跡(黒野) 貞泰が正木坊を移し黒野御坊に。明治時代に黒野別院になる
- ④ 光順寺(黒野) 黒野御坊の留守居役を務める。黒野別院の山門、鐘楼を移築
- ⑤ 超勝寺(折立) 黒野城搦手側の寺院、米子へ所替えのとき、本尊と住職が移る
- ⑥ 専長寺(黒野) 貞泰、木田から黒野城下町への引越を許可、引越免許状藏
- ⑦ 明善寺(黒野) 慶長2年、当地に堂創建。黒野小前身の寺小屋。100枚の格天井絵
- ⑧ 長光寺跡(黒野) 貞泰再興し黒野城の祈願所、洪水で流出、六之井へ移り正道寺
- ⑨ 正法寺(小野) 城の祈願所として貞泰叔父の桂泉僧正を迎え、貞泰再興の寺院
- ⑩ 正木坊跡(正木) 貞泰が正木から黒野へ移転する前の坊舎。場所は推定地
- ⑪ 教徳寺(西改田) 黒野城築城中、貞泰の仮住まい。太鼓堂の長太鼓は黒野別院から移設
- ⑫ 乙津寺(鏡島弘法) 貞泰寄進の光泰位牌。昭和の空襲で寄進の屏風、画像など焼失
- ⑬ 正道寺(揖斐郡池田町) 光泰・貞泰の位牌、元は黒野の長光寺が流失し六之井へ移る
- ⑭ 大龍寺(粟野) ダルマ観音の寺。貞泰、年貢を免除、他の寺領非課税の書状藏
- ⑮ 崇福寺(長良) 貞泰の築堤で河原の寺地復活望む。黒野町屋敷楽市制令書状藏
- ⑯ 教寿寺(鏡島) 加藤姓、「當山歴代略記」に貞泰息男迎える
- ⑰ 月真寺(揖斐郡大野町) 貞泰弟平内采地の旗本六ノ井加藤家の歴代墓地
- ⑱ 八幡神社(村山) 黒野城の北方村山村に慶長13年貞泰新造の棟札
- ⑲ 塩竈神社(揖斐郡大野町黒野) 貞泰、黒野城居城の守護神にしたと伝わる  
しおがま
- ⑳ 尉殿堤記念碑(則武新田天満宮) 貞泰と川北領民で築いた堤の碑(旧記念碑を移設)
- ㉑ 安八の尉殿堤跡(大明神) 慶長6年、貞泰は郷土説田長助に大明神村の堤修復令
- ㉒ 犬山城(犬山市) 西軍加勢衆の貞泰・竹中重門・稲葉貞通・関一政、家康に味方し開城
- ㉓ 関ヶ原古戦場 貞泰は黒田長政・竹中重門と丸山烽火場に布陣、本戦で島津隊と戦う
- ㉔ 竹中陣屋跡(岩手城・垂井) 竹中重門築城、重門妻は貞泰の姉

### 岐阜県外

- つつじがさき
- ・躑躅ヶ崎館(山梨県) 武田氏居館。光泰、修復・石垣築き居城。貞泰も居住の可能性
- ・米子城(鳥取県) 貞泰、2万石加増の6万石で黒野城から転封、7年間在城
- ・清洞寺跡(鳥取県米子市) 貞泰が父光泰を供養する為に黒野から移した曹溪院(墓)
- ・龍護山曹溪院(愛媛県大洲市) 加藤光泰靈廟並びに貞泰など大洲藩主加藤家墓所
- ・大洲城(愛媛県大洲市) 貞泰、米子から6万石で転封、加藤家初代大洲藩主
- ・海禅寺(東京浅草) 貞泰および弟加藤平内光直墓所
- ・高野山(和歌山県) 加藤家墓所・貞泰五輪塔(嫡男泰興建立・生誕地濃州岐阜橋詰)



衛星写真 Google Earthより



## 《黒野城跡ご案内》

- ◇ 施設
  - ・黒野城跡公園・トイレ・児童遊具・顔はめ<sup>ハ</sup>礼
  - ・周辺は車が通れない狭道もあります。徒歩、自転車で散策しましょう。
- ◇ 交通のご案内
  - ・JR東海道線「岐阜駅」下車路線バス 岐阜バス御望野線(約30分) 「黒野城跡前」下車 徒歩約3分
- ◇ 駐車場 (自己責任で駐車願います)
  - P1 黒野城跡入口約3台駐車可
  - P2 二ノ丸資料館(私設)約 4台
  - 見学ご希望の方は関谷(せきや)館長まで事前予約を。
  - ☎ 090-1989-7229



公園内 顔はめ<sup>ハ</sup>礼



## 史跡についてのお問合せ

岐阜市役所 文化財保護課  
〒500-8701 岐阜市司町40-1  
TEL 058-214-2365

## どうする！貞泰 —黒野城主加藤貞泰公没後400年記念誌—

発行 「黒野城と加藤貞泰公研究会」  
〒501-1114 岐阜市今川464-3  
発行日 令和5年5月1日  
著者 河口 耕三  
企画・編集協力 信田 朝次  
印刷製本 安藤印刷株式会社

この書籍は(公財)岐阜市教育文化振興事業団の市民芸術文化・スポーツ基金の助成事業と地域の団体、企業のご協力により発行しております。  
(非売品)

研究会  
QRコード



homepage



facebook



関ヶ原攻防図屏風（四戦図屏風）に描かれた黒野城  
岐阜市歴史博物館所蔵

黒野城と加藤貞泰公研究会